

授業概要			
科目名 臨床作業療法学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 60	時間数 120	学年・時期 3年・通年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 国家試験の合格を目標に、学習スタイルの見直し、基礎三科目（解剖学、運動学、生理学）、専門分野等、しっかり知識を身につける。</p> <p>[授業全体の内容の概要] グループワークにてスケジュールに沿って実施</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）] 国家試験の合格レベル</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
作業療法士に必要な知識を身につける			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] 試験（国家試験レベル）6割以上合格	

授業概要			
科目名 生物学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 1年 前期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 理学療法・作業療法学科において、解剖学や生理学などの専門分野の科目を履修するにあたり、それらの科目の基礎として細胞や遺伝子から調節や代謝の過程まで幅広い生物学の知識を修得することを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 解剖学・生理学の基礎として生物学の幅広い分野を体系的に理解する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 生物学の理解力が医学系専門知識の基礎として応用・発展できる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	生物の概念，多様性と一様性		
2	細胞の構造と機能，細胞膜		
3	生体物質，酵素		
4	メンデル遺伝，ヒトの遺伝		
5	DNA が遺伝子の証拠，DNA の構造と複製		
6	タンパク質合成		
7	光合成		
8	好気呼吸，嫌気呼吸		
9	心臓，血液		
10	肝臓と腎臓		
11	神経系		
12	ホルモン，血糖・体温調整		
13	生体防御		
14	要点のまとめと復習		
15	テストの解答と解説		
<p>【使用テキスト・参考文献】 ・系統看護学講座 基礎3 生物学 第10版 医学書院 ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第4版 医学書院</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 試験 80点＋平常点 20点. 60点以上合格</p>	

授業概要			
科目名 英語	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
15	30	1年・後期	必修
【授業の目的・ねらい】			
作業療法士になる上で必要な医学英語を知ること、医療現場で使えるようになる。			
【授業全体の内容の概要】			
医療の現場ではいわゆる横文字や略語があふれている。そのため、医療現場で仕事をするには、医学用語を日本語だけでなく英語でも理解する必要がある。本講義では医療でよく使われる単語を中心に、簡単な英文などを交え、講義をすすめる。			
【授業終了時の達成課題（到達目標）】			
医療現場でよく用いられる、解剖学（骨・筋・神経）・運動学（運動方向・肢位）・疾患名・職種などの英単語を覚える			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	リハビリテーション・医療に関わる職種・領域		
2	作業療法と作業療法士	理学療法と理学療法士	
3	リハビリテーションの現場		
4	身体の方角・断面・ROM		
5	骨・筋		
6	神経系		
7	骨折		
8	腰痛・スポーツ障害		
9	パーキンソン病		
10	脳血管障害		
11	嚥下障害・COPD		
12	言語聴覚士の仕事		
13	医療に関わる映画鑑賞と課題提示		
14	英単語の総復習		
15	フィードバック		
【使用テキスト・参考文献】		【単位認定の方法及び基準】	
<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの基礎英語 改訂第3版 メジカルビュー社 ・医学英和辞典 ・英和辞典 		小テスト：20点、課題：10点、期末筆記試験：70点、60点以上合格。	

授業概要			
科目名 臨床実習 I	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
	90	1年・後期	必修 必修
[授業の目的・ねらい] <ul style="list-style-type: none"> ・地域での病院・施設の役割やリハビリテーション部門の概略を理解する。 ・社会や医療の中における理学療法の責任を理解する。 ・患者様や指導者・スタッフのコミュニケーションのとりかたを学ぶ。 ・社会人・職業人としての目を養い、心を養う。 ・作業療法士になることへの動機づけを高め、以後の学習への意欲を高める。 			
[授業全体の内容の概要]			
[授業終了時の達成課題（到達目標）]			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
<p>1年次の所定の科目を履修した学生は学年末に 45 時間を 1 施設で実習する。 デイリーノートと感想文の提出を求める。 実習報告会を行う。</p> <p>*対象者様と接する実習であるため、「甘え」は禁物である。全ての行為・言動に責任が伴うことを自覚すること。 対象者様および施設より与えていただいた学習の機会を最大限活用すること。</p>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
		実習指導者による評定を基に、実習判定会議にて 60%以上の成果をもって合格とする。	

授業概要			
科目名 臨床実習Ⅱ	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数	時間数 180	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
【授業の目的・ねらい】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業で学んだ知識・技術を実習指導者の下で実際に症例に応用する。 ・ 評価の一連の流れを習得する。 ・ 症例の身体機能、精神機能、生活機能を様々な角度から分析し、問題を把握する。 ・ 医療人・職業人としての目を養い、心を養う。 ・ 患者様や指導者・スタッフのコミュニケーションのとりかたを学ぶ。 ・ 社会人・職業人としての目を養い、心を養う。 ・ 作業療法士になることへの動機づけを高め、以後の学習への意欲を高める。 			
【授業全体の内容の概要】 【授業終了時の達成課題（到達目標）】			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
<p>2年次の所定の科目を履修した学生は、学年末に135時間を1施設で実施する。 ケースレポートの提出を求める。 実習報告会を行う。 *実習前に、検査測定法を完璧に記憶し反復練習をしておくこと。 （注意） 対象者様と接する実習であるため、「甘え」は禁物である。全ての行為・言動に責任が伴うことを自覚すること。対象者様および施設より与えていただいた学習の機会を最大限活用すること。</p>			
【使用テキスト・参考文献】		【単位認定の方法及び基準】 実習指導者による評定を基に、実習判定会議にて60%以上の成果をもって合格とする。	

授業概要			
科目名 臨床実習Ⅲ	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数	時間数 630	学年・時期 3年・前期・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価実習の経験を生かし、対象者様の全体像をとらえ目標設定をおこない、実習指導者の指導の下で作業療法プログラムを立案、実施する。 ・対象者様との交流を通して、生活の視点を養う。 ・リハビリテーションチームのあり方を学ぶ。 ・専門職・社会人として責任のある態度・講堂がとれるようになることを目指す。 ・患者様や指導者・スタッフのコミュニケーションのとりかたを学ぶ。 ・社会人・職業人としての目を養い、心を養う。 ・作業療法士になることへの動機づけを高め、以後の学習への意欲を高める。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
<p>2施設で計630時間の実習をおこなう。</p> <p>ケースレポート、発表用のレジメの提出を求める。</p> <p>実習報告会を行う。</p> <p>*実習前に、検査測定法を完璧に記憶し反復練習をしておくこと。</p> <p>（注意）</p> <p>対象者様と接する実習であるため、「甘え」は禁物である。全ての行為・言動に責任が伴うことを自覚すること。対象者様および施設より与えていただいた学習の機会を最大限活用すること。</p>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
		実習指導者による評定を基に、実習判定会議にて60%以上の成果をもって合格とする。	

授業概要			
科目名 保健体育	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 1年・前期・後期	必修・選択 必修
【授業の目的・ねらい】 各種ボールゲームを通して各種運動の特性に応じた技能を高め、関心を持たせ運動の楽しさや喜びを体得させる			
【授業全体の内容の概要】 各種目ごとの技術に関する方法論やルールを解説しながら習得させる			
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 練習やゲームにより互いに協力する態度、健康や安全に留意する能力を身に付けさせる			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション（種目内容・評価方法など） 種目：バレーボール パス練習		
2	種目：バレーボール ルール・審判法の説明 スパイク・サーブ練習		
3	種目：バレーボール 実技試験の説明・練習・試験（直上パス）		
4	種目：バレーボール 6人制ゲーム		
5	種目：フットサル 対面パス・三角パス・トラップ・ドリブル練習		
6	種目：フットサル ルール・審判法の説明 5人制ゲーム		
7	種目：フットサル 実技試験の説明・練習・試験（リフティング）		
8	種目：フットサル 5人制ゲーム		
9	種目：バスケットボール パス・ドリブル・シュート練習 2対1・2対2・3対3		
10	種目：バスケットボール ルール・審判法の説明 5人制ゲーム		
11	種目：バスケットボール 実技試験の説明・練習・試験（フリーシュート・30秒間シュート）		
12	種目：バスケットボール 5人制ゲーム		
13	種目：ボウリング 2ゲームの合計得点で競う		
14	種目：卓球およびバドミントン	サーブ・スマッシュ・ラリー練習	
15	種目：卓球およびバドミントン	シングル・ダブルスの簡易ゲーム	
【使用テキスト・参考文献】 なし		【単位認定の方法及び基準】 実技試験 60点、平常点 40点（出席、授業態度） 計 100点 60点以上合格	

授業概要			
科目名 理学療法学概論	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 8	時間数 15	学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
【授業の目的・ねらい】 理学療法および理学療法士について学習する。			
【授業全体の内容の概要】 理学療法の定義・理学療法士の業務内容について講義する。			
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 理学療法・理学療法士について理解することができる。			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	理学療法の定義と理学療法士について		
2	理学療法の実際Ⅰ（筋力増強訓練）		
3	理学療法の実際Ⅱ（関節可動域訓練）		
4	理学療法の実際Ⅲ（トランスファー）		
5	理学療法の実際Ⅳ（心臓・呼吸器）		
6	理学療法の実際Ⅴ（内部疾患）		
7	理学療法の実際Ⅵ（物理療法）		
8	まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 テキストは使用しない。		【単位認定の方法及び基準】 定期試験 100 点 60 点以上合格	

授業概要			
科目名 解剖学 I	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 医学の基礎と根幹をなす人体の構造について、理解を深める。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 基本的な人体構造を理解し、神経系、脈管系、感覚器系、内臓系などの基礎知識を系統的に習得する。講義は器官系ごとに行うが、他の器官系との相互関係・作用について、また疾患や治療など臨床的側面について、常に意識し個々の知識を幅広く絡めて理解すること。この科目は、総論である人体のあらましをはじめ、神経系、脈管系を中心に講義を行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 細胞、組織、器官さらに各器官系の相互的構造・作用（人体のあらまし）について理解できる。神経系（中枢神経、末梢神経）脈管系（心臓、全身の動脈、静脈）について説明できる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	人体のあらまし①		
2	中枢神経系①		
3	中枢神経系②		
4	中枢神経系③		
5	中枢神経系④		
6	中枢神経系⑤		
7	末梢神経①		
8	末梢神経②		
9	末梢神経③		
10	末梢神経④		
11	循環器系①		
12	循環器系②		
13	循環器系③		
14	循環器系④		
15	循環器系⑤		
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメディカルのための臨床解剖学サブノート ・プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト 医学書院 ・機能解剖で斬る神経系疾患 第2版 メディカルプレス 		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験。60点以上合格とする。小テスト、レポート課題、受講態度を加味する場合がある。</p>	

授業概要			
科目名 解剖学 I (運動器)	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
15	30	1年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法を行うにあたり，人体構造を十分に理解することが必要である．本講義では，四肢の神経・筋・動作を中心に学ぶ．人体解剖に興味をもち怯まず勉学に励んで下さい</p> <p>【授業全体の内容の概要】 人体を構成する細胞および組織について学習する．リハビリテーション医学・医療を学ぶにあたって解剖学用語を習得する．筋の起始・停止・作用・神経支配を学習する．</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 頸部・体幹・上肢の起始・停止・作用・神経支配を理解する．</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	人体の細胞・組織		
3	頸部・体幹		
4	胸郭・骨盤		
5	上肢帯・自由上肢骨		
6	肩関節		
7	肩の筋		
8	上腕の筋		
9	上腕の筋		
10	前腕の屈筋		
11	前腕の伸筋		
12	手根管		
13	手のアーチ		
14	復習		
15	フィードバック		
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメディカルのための臨床解剖学サブノート ・プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト 医学書院 ・機能解剖で斬る神経系疾患 第2版 メディカルプレス 		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験．60点以上合格．</p>	

授業概要			
科目名 解剖学Ⅱ(運動器)	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
15	30	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法を行うにあたり，人体構造を十分に理解することが必要である．本講義では，四肢の神経・筋・動作を中心に学ぶ．人体解剖に興味をもち怯まず勉学に励んで下さい</p> <p>【授業全体の内容の概要】 人体を構成する細胞および組織について学習する．リハビリテーション医学・医療を学ぶにあたって解剖学用語を習得する．筋の起始・停止・作用・神経支配を学習する．</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 手・下肢の起始・停止・作用・神経支配を理解する．</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	小テスト		
2	復習		
3	母指球筋		
4	小指球筋・中手筋		
5	下肢帯・自由下肢骨		
6	股関節		
7	大腿の屈筋		
8	大腿の伸筋		
9	膝関節		
10	下腿の屈筋		
11	下腿の伸筋		
12	足根管		
13	足のアーチ		
14	復習		
15	フィードバック		
<p>【使用テキスト・参考文献】 ・コメディカルのための臨床解剖学サブノート ・プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト 医学書院 ・機能解剖で斬る神経系疾患 第2版 メディカルプレス</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験．60点以上合格．</p>	

授業概要			
科目名 解剖学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 医学の基礎と根幹をなす人体の構造について、理解を深める。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 基本的な人体構造を理解し、神経系、脈管系、感覚器系、内臓系などの基礎知識を系統的に習得する。講義は器官系ごとに行うが、他の器官系との相互関係・作用について、また疾患や治療など臨床的側面について、常に意識し個々の知識を幅広く絡めて理解すること。この科目は、感覚器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系など内臓系を中心に講義を行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 感覚器系（体性感覚・特殊感覚）、消化器系（消化管系、肝臓、胆嚢、膵臓）、呼吸器系（上気道・下気道、肺）、泌尿器系（腎臓、尿路）、生殖器（男性、女性生殖器）について説明できる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	泌尿器①		
2	生殖器①		
3	生殖器②		
4	生殖器③		
5	呼吸器①		
6	呼吸器②		
7	呼吸器③		
8	消化器①		
9	消化器②		
10	消化器③		
11	消化器④		
12	感覚器①		
13	感覚器②		
14	感覚器③		
15	感覚器④		
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメディカルのための臨床解剖学サブノート ・プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト 医学書院 ・機能解剖で斬る神経系疾患 第2版 メディカルプレス 		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>筆記試験、60点以上合格とする。小テスト、レポート課題、受講態度を加味する場合がある。</p>	

授業概要			
科目名 解剖学実習	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
23	45	1年・前期・後期	必修 必修
【授業の目的・ねらい】			
骨・筋・じん帯の構造を時限的に理解できるようになることを目的とする			
【授業全体の内容の概要】			
骨模型のスケッチや骨・筋・じん帯のそれぞれの目的をレポートや討論にて解決する			
【授業終了時の達成課題（到達目標）】			
国家試験にて出題されている問題が解けるようになる			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	上肢帯の骨のスケッチ		
3	上肢帯の骨のスケッチ		
4	上肢帯の骨のスケッチ		
5	体幹の骨のスケッチ		
6	体幹の骨のスケッチ		
7	下肢帯の骨のスケッチ		
8	下肢帯の骨のスケッチ		
9	下肢帯の骨のスケッチ		
10	口頭試問・小テスト		
11	関節の形態		
12	骨連結の仕組み①		
13	骨連結の仕組み②		
14	筋肉の構成について①		
15	筋肉の構成について②		
【使用テキスト・参考文献】		【単位認定の方法及び基準】	
<ul style="list-style-type: none"> ・コメディカルのための臨床解剖学サブノート ・プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト 医学書院 ・機能解剖で斬る神経系疾患 第2版 メディカルプレス 		小テスト及び提出物の提出状況＝40％ 定期試験＝60％ 上記比率の下、60点以上のものを合格とし単位認定する。	

授業概要			
科目名 機能解剖学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 23	時間数 45	学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法士に必要な触察について学習する.</p> <p>【授業全体の内容の概要】 筋肉・骨・神経・血管について、実習する.</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 作業療法士において必要な触察技術を身につけることができる.</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	肩甲骨 僧帽筋		
3	肩甲挙筋 小菱形筋 大菱形筋		
4	広背筋		
5	頭板状筋 頸板状筋		
6	長肋筋 最長筋 腰方形筋		
7	胸鎖乳突筋 前斜角筋 中斜角筋		
8	大胸筋 小胸筋 鎖骨下筋		
9	腹直筋 外腹斜筋 内腹斜筋		
10	実技試験対応		
11	実技試験対応		
12	三角筋		
13	棘上筋 棘下筋 小円筋		
14	大円筋 肩甲下筋		
15	上腕二頭筋 烏口腕筋		
<p>【使用テキスト・参考文献】 ・骨格筋の形と触察法 第2版 大峰閣 ・水着など触察できる服装を用意すること ・ウエットティッシュも各自用意すること</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 実技試験 60点, 小テスト 20点, 口頭試問 20点, 60点以上合格</p>	

授業概要			
科目名 機能解剖学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
23	45	1年・後期	必修 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法士に必要な触察について学習する.</p> <p>【授業全体の内容の概要】 筋肉・骨・神経・血管について、実習する.</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 作業療法士において必要な触察技術を身につけることができる.</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	円回内筋 機側手根屈筋 長掌筋 尺側手根屈筋		
2	浅指屈筋 深指屈筋 長母指屈筋 方形回内筋		
3	尺側手根伸筋 小指伸筋 総指伸筋		
4	長母指外転筋 短母指伸筋 長母指伸筋 示指伸筋		
5	実技試験対応		
6	実技試験対応		
7	腸骨筋 大腰筋		
8	大殿筋		
9	中殿筋 小殿筋		
10	大腿筋膜張筋		
11	縫工筋		
12	大腿四頭筋		
13	大腿二頭筋		
14	薄筋 長内転筋 大内転筋		
15	前脛骨筋 長趾伸筋 第三腓骨筋 長母指伸筋		
<p>【使用テキスト・参考文献】 骨格筋の形と触察法 第2版 大峰閣 水着など触察できる服装を用意すること ウエットティッシュも各自用意すること</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 実技試験 60点, 小テスト 20点, 口頭試問 20点, 60点以上合格</p>	

授業概要			
科目名 生理学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 人体にみられる各機能の分子，細胞，組織，器官および個体の各レベルの特徴について学習し，生命現象を人体各部の機能を通して理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 各器官系における特異的物質および解剖学基礎を復習し，それらと特異的機能との関係を説明する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 各器官系における機能の基本的過程，形態との関係および個体・集団との関係を説明出来る。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	生理学総論：生命現象と人体。以下各論：体液；イオン，塩，pH，有機物，ホメオスタシス		
2	物質の濃度；重量・体積百分率，モル濃度，イクイバレント		
3	物質の濃度；物質の拡散，浸透，浸透圧		
4	細胞の構造と機能1；細胞膜，オルガネラなど		
5	2；細胞膜の半透性，イオンチャンネル，イオンポンプ		
6	3；受動輸送，能動輸送		
7	4；細胞内・外のイオン組成，アシドーシス，アルカローシス，静止膜電位		
8	5；活動電位，興奮性細胞		
9	神経系および神経の興奮電動1；神経系の分類と機能，神経細胞の構造		
10	2；シナプス部の構造，興奮のシナプス伝達，反射（伸張・屈曲など）		
11	末梢神経系，興奮の伝導		
12	中枢神経系1；脊髄の構造，伝導路，脊髄反射		
13	2；脳幹部・小脳の構造と機能，間脳の構造と機能		
14	3；大脳の構造と機能		
15	中枢神経4；自律神経系，反射中枢		
<p>【使用テキスト・参考文献】 石澤光郎 富永淳「標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版」 医学書院</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験。60点以上合格。</p>	

授業概要			
科目名 生理学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 人体にみられる各機能の分子，細胞，組織，器官および個体の各レベルの特徴について学習し，生命現象を人体各部の機能を通して理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 各器官系における特異的物質および解剖学基礎を復習し，それらと特異的機能との関係を説明する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 各器官系における機能の基本的過程，形態との関係および個体・集団との関係を説明出来る。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	運動器（筋・骨格）系 1；運動器の分類・構造・機能，骨系の成長・改築		
2	2；横紋筋の収縮とエネルギー代謝，平滑筋の収縮，筋電図		
3	感覚系 1；感覚系の分類，適刺激・閾値・順応，体性感覚		
4	2；深部感覚（筋紡錘，ゴルジ腱器官など），内臓感覚		
5	3；特殊感覚（味覚，嗅覚，視覚）		
6	4；特殊感覚（平衡，聴覚）		
7	循環系 1；血液，循環		
8	2；心臓（刺激伝導系と神経系）		
9	3；心周期，心電図，血圧とその調整		
10	呼吸系 1；呼吸器量，ガス交換		
11	2；呼吸調整		
12	消化系；嚥下，消化活動，消化酵素，肝臓・膵臓機能		
13	泌尿系；尿生成，クリアランス，排尿		
14	生殖系・内分泌；生殖とその調整，ホルモン作用		
15	内分泌系		
<p>【使用テキスト・参考文献】 石澤光郎 富永淳 「標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版」 医学書院</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60点以上合格.</p>	

授業概要			
科目名 生理学実習	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
15	30	1年・後期	必修 必修
【授業の目的・ねらい】			
神経と骨格筋の各々の働きを測定し、実際に自分の目で観察することにより、その性質を理解すること			
【授業全体の内容の概要】			
各実習項目を行う前にその目的と基礎知識を得るための講義を行う			
【授業終了時の達成課題（到達目標）】			
神経と骨格筋の各々の働きを測定し、実際に自分の目で観察する事により、その性質を理解する。			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	実習準備（機械の取り扱い，リンゲル液作成，コンピュータ操作）		
2	実習準備（機械の取り扱い，リンゲル液作成，コンピュータ操作）		
3	活動電位の記録と不応期の測定		
4	活動電位の記録と不応期の測定		
5	活動電位の峰分かれと伝導速度		
6	活動電位の峰分かれと伝導速度		
7	活動電位と外液 Na ⁺ ，K ⁺ イオンの役割		
8	活動電位と外液 Na ⁺ ，K ⁺ イオンの役割		
9	筋の単収縮，強縮		
10	筋の単収縮，強縮		
11	筋の長さ－張力曲線		
12	筋の長さ－張力曲線		
13	筋疲労		
14	筋疲労		
15	まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 資料配布		【単位認定の方法及び基準】 レポート課題. 60点以上合格.	

授業概要			
科目名 運動学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法士は理論的に身体の運動を理解しなければならない。この講義では身体運動はどのように行われているのか、ということも含め学んでいく。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 作業療法士が運動療法を展開するための基礎知識として、運動学全般の基本を理解し身体運動を理論的に学習する。また、必要となる生理学的な知識についても確認する</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 横紋筋の特性を理解する。身体におけるこの原理を説明できる。知覚と運動に関して述べられる。筋の構造、タイプを理解する。関節の種類に関して述べられる。上肢、下肢の運動のメカニズムを理解する。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	てこの種類		
3	頸部・上肢・下肢・体幹の運動方向		
4	関節の種類		
5	関節の種類		
6	骨の構造		
7	筋の構造・筋活動と筋張力		
8	上肢の運動		
9	上肢の運動		
10	上肢の運動		
11	上肢の運動		
12	上肢の運動 手の機能		
13	手の機能		
14	復習		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 中村隆一・齋藤宏・長崎宏 著「基礎運動学 第6版」 医歯薬出版		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験。60点以上合格。	

授業概要			
科目名 運動学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
15	30	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法士は理論的に身体の運動を理解しなければならない。この講義では身体運動はどのように行われているのか、ということも含め学んでいく。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 作業療法士が運動療法を展開するための基礎知識として、運動学全般の基本を理解し身体運動を理論的に学習する。また、必要となる生理学的な知識についても確認する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 姿勢・動作分析に関して理解する。歩行分析・運動学習に関して理解する</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	前期復習		
2	下肢の運動		
3	下肢の運動		
4	下肢の運動		
5	体幹の運動		
6	呼吸・循環		
7	重心・姿勢		
8	座位・立位・立ち上がり		
9	歩行		
10	歩行		
11	歩行分析		
12	運動学習		
13	運動学習		
14	復習		
15	フィードバック		
<p>【使用テキスト・参考文献】 中村隆一・齋藤宏・長崎宏 著「基礎運動学 第6版」 医歯薬出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験。60点以上合格。</p>	

授業概要			
科目名 運動学実習	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
15	30	1年・後期	必修 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 運動学実習では、人体の仕組みと運動を解剖学・運動学・生理学の基本として理解する。運動・動作課題を目で見て確かめ、理解を深めつつ、レポート課題の記載方法について学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 人体の仕組みと運動を分析する</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 運動の位置づけができる レポートの記載方法が理解できる</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	運動方向について		
3	運動方向について		
4	立位		
5	座位→立位 の体位変換		
6	寝返り		
7	寝返り		
8	歩行分析		
9	歩行分析		
10	歩行分析		
11	3次元動作分析		
12	3次元動作分析		
13	3次元動作分析		
14	総復習		
15	まとめ		
<p>【使用テキスト・参考文献】 カラー版 カパンジー機能解剖学全3巻 原著第6版 医歯薬出版 中村隆一・齋藤宏・長崎宏 著 「基礎運動学 第6版」 医歯薬出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 レポート課題、60点以上合格。</p>	

授業概要			
科目名 人間発達学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
15	30	1年・後期	必修 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 人間発達の心理的な部分を中心に、胎生期から老人期に至るまでの生涯にわたっての発達段階ごとの特徴・課題を中心に、人間理解のための一助とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 人間を時系列で見たとき、その時期特有の問題点に焦点をあて、できるだけわかりやすい事例を用いながら理解を深める</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 臨床で出会う対象者を発達段階をふまえて理解できるようにする。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	発達とは、発達理論		
2	発達の見方と発達検査		
3	胎児期・新生児期の発達		
4	乳児期の発達①		
5	乳児期の発達②		
6	幼児期の発達		
7	学童期の発達		
8	児童期の発達		
9	青年期の発達		
10	成人期の発達		
11	老年期の発達		
12	身体の運動機能と構造・知覚・認知機能の発達と障害		
13	情緒・社会性・言語機能の発達と障害		
14	脳・神経系・内部機能の発達と障害		
15	試験の振り返り		
<p>【使用テキスト・参考文献】 大城昌平編集「リハビリテーションのための人間発達学」第2版 メディカルプレス</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 定期試験 60点以上、レポート提出</p>	

授業概要			
科目名 内科学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 5	時間数 10	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] [授業全体の内容の概要] [授業終了時の達成課題（到達目標）]			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	内科学総論		
2	症候学		
3	消化器総論，上部消化管		
4	下部消化管，肝臓		
5	肝，胃ろう		
[使用テキスト・参考文献] 標準理学療法学・作業療法学 内科学 第3版 医学書院		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
科目名 内科学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
8	10	1年・後期	必修 必修
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>内科学系を学ぶにあたって大切なことは「概念」を理解することです。概念を理解するためにはその元となる基本的な知識（解剖学などの基礎医学的知識）が必要となります。1年生の段階では内科学と並行して基礎医学的知識を習得するように心がけてください。本講義では内科学の知識習得を目的として、指定テキストに沿って講義を進めます。また療法士としての着眼点を「理学作業療法との関連事項」などを中心に学びます。さらに近年の国家試験の出題傾向についても随時補足していきます。質問等は講義中または講義終了後に随時発言してください。</p> <p>また折に触れて、皆さんが成長するための「社会人としての心構え」を助言していきます。本講義を通じて共に学び成長していきましょう。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <p>その他 ①在学中に「一次救命講習（CPRとAED）」の受講を推奨します。 ②読書の励行，図書館（校内・他大学・公共）の利用を推奨します。 ③医療従事者として（喫煙者は）「禁煙」を推奨します。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	第4章（循環器疾患・総論）		
2	第4章（循環器疾患・各論）		
3	第5章（呼吸器疾患・総論）		
4	第5章（呼吸器疾患・各論）		
5	第9章（代謝性疾患）		
6	第10章（内分泌疾患疾患）		
7	第11章（腎泌尿器疾患）		
8	試験解説および総括		
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>大成浄志「標準理学療法学・作業療法学 内科学 第3版」 医学書院</p> <p>必要時に資料配布や文献紹介を加えます</p> <p>その他</p> <p>①在学中に「一次救命講習（CPRとAED）」の受講を推奨します。</p> <p>②読書の励行，図書館（校内・他大学・公共）の利用を推奨します。</p> <p>③医療従事者として（喫煙者は）「禁煙」を推奨します。</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>期末科目試験をもとに総合的に評価します。 ※事前の予習状況や講義中の積極性を総合評価に加味します。</p>	

授業概要			
科目名 整形外科学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 整形外科学は、骨、関節、筋肉、脊髄、末梢神経－運動器－の疾患とその治療を扱う、リハビリテーション学とは関連の深い学問です。整形外科の主要な疾患の症状、診断、治療を中心の講義します</p> <p>【授業全体の内容の概要】 【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	代謝・内分泌疾患（骨粗鬆症）		
2	変形性疾患，神経病性関節症		
3	炎症性疾患（リウマチの1部まで）		
4	リウマチ，感染性疾患		
5	炎症性疾患，先天性疾患の一部		
6	先天性疾患，四肢循環障害		
7	壊死性疾患，腫瘍（特徴）		
8	骨・軟部腫瘍		
9	神経・筋疾患		
10	脊椎疾患		
11	脊椎疾患，側弯症		
12	変形性脊椎疾患，廃用症候群（1部）		
13	廃用症候群など		
14	炎症性疾患，腫瘍，神経疾患など		
15	整形外科全般（まとめ）		
<p>【使用テキスト・参考文献】 標準理学療法学・作業療法学「整形外科学 第4版」 医学書院 参考文献：医学書院 標準整形外科学</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験。60点以上合格。</p>	

授業概要			
科目名 整形外科学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 整形外科学は、骨、関節、筋肉、脊髄、末梢神経－運動器－の疾患とその治療を扱う、リハビリテーション学とは関連の深い学問です。整形外科の主要な疾患の症状、診断、治療を中心の講義します。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	骨折一般		
2	各論（脊椎骨骨折、骨盤骨折など）		
3	骨折（上肢一般）		
4	下肢骨折一般		
5	脊髄損傷		
6	捻挫、脱臼、神経損傷（1部）		
7	末梢神経の外傷性疾患		
8	腱・靭帯損傷、スポーツ障害		
9	腱・靭帯損傷、スポーツ障害		
10	スポーツ障害、各論		
11	スポーツ障害、熱傷		
12	切断（原因、切断の実際）		
13	義手、義足（種類、構造）		
14	整形外科後期全般まとめ（外傷性疾患、脊椎疾患など）		
15	外傷一般など		
<p>【使用テキスト・参考文献】 標準理学療法学・作業療法学「整形外科学 第4版」 医学書院 参考文献：医学書院 標準整形外科学</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験。60点以上合格。</p>	

授業概要			
科目名 神経内科学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 本講義では神経内科学の知識習得を目的として、指定テキストに沿って講義を進めます。また療法士としての着眼点を「理学作業療法との関連事項」を中心に学びます。さらに近年の国家試験の出題傾向についても随時補足していきます。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 本講義では神経内科学の知識習得を目的として、指定テキストに沿って講義を進めます。また療法士としての着眼点を「理学作業療法との関連事項」を中心に学びます。さらに近年の国家試験の出題傾向についても随時補足していきます。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <p>①在学中に「一次救命講習（CPR と AED）」の受講を推奨します。 ②読書の励行，図書館（校内・他大学・公共）の利用を推奨します。 ③医療従事者として（喫煙者は）「禁煙」を推奨します。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	第1・2章		
2	第3・4章		
3	第5・6章		
4	第7・8・9章		
5	第10・24章		
6	第11～16章		
7	第7～19章		
8	第20・23章		
9	第21章		
10	第25・26章		
11	第27～29章		
12	第30～32章		
13	第33～35章		
14	補足事項・総まとめ		
15	試験解説および総括		
<p>【使用テキスト・参考文献】 「標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 第5版」 医学書院 資料配布や文献紹介を随時加えます。</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 平常点および期末科目試験を総合的に評価し、必要時に再試験，課題等。 ※「平常点」は予習状況や講義中の積極性を評価対象とします</p>	

授業概要			
科目名 脳外科学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 脳は人格を形成する重要な組織である。加えて注意すべきことは脳神経細胞が一度細胞死をきたすと二度と再生、増殖しないことと中枢神経には機能局在があるということである。従って、脳神経の疾患は損傷を受けた部位と損症の程度により機能低下（損傷）の種類と症状の度合いが異なる。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 脳神経外科疾患の概要を把握し、病態、診断、治療法度についての理解（どの中枢部位の損傷がどのような機能異常を起こすか）を深め、長期間のリハビリを必要とする脳機能回復のための作業療法の必要性について学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 脳神経外科疾患の概要を把握し、病態、診断、治療法について理解する。長期間のリハビリを必要とする脳機能回復のための作業療法の必要性を理解する。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	緒論		
2	主要症候一頭痛、けいれん		
3	主要症候一意識障害		
4	主要症候一頭蓋内圧亢進、脳ヘルニア		
5	主要症候一脳浮腫、脳循環代謝異常		
6	画像診断法		
7	神経所見		
8	脳腫瘍		
9	下垂体腺腫		
10	脳内血腫、一過性脳虚血		
11	くも膜下出血、脳内出血		
12	脳内出血、脳梗塞		
13	脳梗塞の治療		
14	まとめ		
15	解説		
[使用テキスト・参考文献] 「標準脳神経外科学 第14版」 医学書院		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験。60点以上合格。	

授業概要			
科目名 精神医学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
15	30	2年・前期	必修 必修
【授業の目的・ねらい】 作業療法士に必要な精神医学的知識の習得			
【授業全体の内容の概要】 作業療法士に必要な精神医学的知識の習得の仕方と 現場で伝える手法とその原理を分かりやすく講義する			
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 作業療法士に必要な精神医学的知識の習得			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	精神症状学 1		
2	精神症状学 2		
3	統合失調症・妄想性障害 1		
4	統合失調症・妄想性障害 2		
5	統合失調症・妄想性障害 3		
6	気分（感情）障害 1		
7	気分（感情）障害 2		
8	てんかん 1		
9	てんかん 2		
10	神経症・ストレス関連障害・身体表現性障害 1		
11	神経症・ストレス関連障害・身体表現性障害 2		
12	国試テスト 1		
13	国試テスト 2		
14	国試テスト 3		
15	前期まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 「TEXT 精神医学 第4版」 南山堂 「看護のための精神医学」第2版 医学書院		【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
科目名 作業療法評価学Ⅱ（精神）	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 評価の実際を理解する.</p> <p>【授業全体の内容の概要】 精神科作業療法で実施する一般的な評価についての知識と方法を学ぶ.</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 評価方法について説明できる.</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	作業療法と評価		
2	精神機能作業療法評価学の基礎		
3	面接法		
4	質問紙法		
5	観察法		
6	行動観察		
7	実験的観察法		
8	集団評価法		
9	日常生活技能評価法		
10	検査法①		
11	検査法②		
12	検査法③		
13	疾患別評価①		
14	疾患別評価②		
15	フィードバック		
[使用テキスト・参考文献] 「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」医学書院		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
科目名 作業療法評価学実習	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 身体障害領域で主に必要な評価を身に付ける，安全・正確かつ効率的に行えるようになる。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 主に身体領域の作業療法で最低限必要となる評価項目について，安全・正確かつ効率的に行えるよう指導のもと，学生同士で交代しながら評価を行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 身体障害領域で主に必要な評価を行うことができる</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション・ROM おさらい		
2	腱反射		
3	腱反射		
4	表在反射・病的反射		
5	MMT：肩・肩甲帯		
6	MMT：肘・前腕		
7	MMT：肘・前腕		
8	MMT：手・手指		
9	MMT：手・手指		
10	MMT：上肢まとめ		
11	MMT：股		
12	MMT：股		
13	MMT：膝・足		
14	MMT：膝・足		
15	MMT：下肢まとめ		
<p>【使用テキスト・参考文献】 「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」 医学書院 「新・徒手筋力検査法 原著第9版」 共同医書 「PT・OTのための臨床技能とOSCE」 金原出版株式会社 「ベットサイドの神経の診かた 第18版」 南山堂</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 実技試験. 60点以上合格.</p>	

授業概要			
科目名 作業療法評価学実習	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
15	30	2年・後期	必修 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 身体障害領域で主に必要な評価を身に付ける，安全・正確かつ効率的に行えるようになる。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 主に身体領域の作業療法で最低限必要となる評価項目について，安全・正確かつ効率的に行えるよう指導のもと，学生同士で交代しながら評価を行う。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）] 身体障害領域で主に必要な評価を行うことができる</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	MMTおさらい		
2	脳神経検査		
3	脳神経検査		
4	片麻痺機能検査		
5	片麻痺機能検査		
6	片麻痺機能検査		
7	知覚検査		
8	知覚検査		
9	協調性検査		
10	筋緊張検査		
11	神経学的検査		
12	総復習		
13	総復習		
14	総復習		
15	フィードバック		
<p>[使用テキスト・参考文献] 「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」 医学書院 「新・徒手筋力検査法 原著第9版」 共同医書 「PT・OTのための臨床技能とOSCE」 金原出版株式会社 「ベットサイドの神経の診かた 第18版」 南山堂</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 実技試験. 60点以上合格.</p>	

授業概要			
科目名 作業療法評価学実習（精神）	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 体験を通じ、評価法の理解を深める。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 評価法を体験しながらケースレポートの作成を行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 レジュメを作成できる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	ケースレポートの書き方		
2	情報収集		
3	面接		
4	質問紙法①		
5	質問紙法②		
6	行動観察		
7	実験的観察法		
8	箱づくり法①		
9	箱づくり法②		
10	箱づくり法解釈		
11	アジマバッテリー①		
12	アジマバッテリー②		
13	アジマバッテリー解釈		
14	ケース発表		
15	フィードバック		
<p>【使用テキスト・参考文献】 「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」医学書院</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験（60％）レポート（40％）. 合算し 60 点以上合格.</p>	

授業概要			
科目名 作業療法治療学Ⅰ（身体）	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 身体領域作業療法治療学の講義では中枢神経疾患及び整形外科疾患である。リウマチ・脊髄損傷・末梢神経損傷を取り上げて、作業療法士に必要な治療について学習する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 中枢神経疾患・関節リウマチ・脊髄損傷・末梢神経損傷・熱傷を中心とした疾患のリハビリテーションを学習する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 脳血管障害・関節リウマチ・脊髄損傷・末梢神経損傷・熱傷の治療学を学習する。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	関節リウマチ		
3	関節リウマチ		
4	脊髄損傷		
5	脊髄損傷		
6	腕神経叢麻痺・骨折		
7	腕神経叢麻痺・骨折		
8	熱傷・腱断裂		
9	脳血管障害（症状・評価項目）		
10	脳血管障害（中枢性麻痺の特徴・ファシリテーションの考え方）		
11	脳血管障害（急性期・回復期・維持期のリハビリテーション）		
12	頭部外傷		
13	パーキンソン病		
14	脊髄小脳変性症、その他神経・筋疾患		
15	フィードバック		
<p>【使用テキスト・参考文献】 「作業療法学全書 改定第3版 第4巻 作業治療学Ⅰ 身体障害」協同医書出版 「脳卒中最前線第4版」 医歯薬出版 「図解 作業療法技術ガイドー根拠と臨床経験にもとづいた効果的な実践のすべて」 文光堂</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験。60点以上合格。</p>	

授業概要			
科目名 作業療法治療学Ⅱ（高齢者）	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 高齢者に対する作業療法を実施するにあたって必要な視点や知識を学ぶ。老いに対する認識から認知症をはじめとする高齢者特有の疾患について考えていく。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 講義・ディスカッション・演習を通し高齢者の特徴や背景を捉える。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 高齢者の老いや生活背景を理解することができる。 認知症をはじめとする高齢者特有の疾患について理解することができる。 高齢者の作業療法について深めることができる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	高齢化の進展，高齢社会の問題		
2	老年期の特徴，生活課題		
3	老化について（生活機能遂行要素）		
4	老年期の課題		
5	高齢者の作業療法における医学知識①		
6	高齢者の作業療法における医学知識②		
7	高齢者の作業療法に必要な心理・社会学的知識		
8	高齢者の作業療法の流れ		
9	高齢者の作業療法評価①		
10	高齢者の作業療法評価②		
11	生活行為向上マネジメント①		
12	生活行為向上マネジメント②		
13	生活行為向上マネジメント③		
14	事例検討		
15	フィードバック		
[使用テキスト・参考文献] 「クリニカル作業療法シリーズ 高齢期領域の作業療法 第2版 プログラム立案のポイント」中央法規		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 60点以上合格	

授業概要			
科目名 作業療法治療学Ⅲ（精神）	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 精神科作業療法を知る。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 精神障害に対する医療の歴史、障害の捉え方、作業療法が果たす役割、治療構造、作業療法の流れを学習する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 認知機能障害を理解する。生活障害をかかえた人々への治療・援助計画を立てるための知識を習得する。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	精神保健医療福祉の歴史		
2	精神症状に関する基礎知識		
3	薬物療法		
4	精神科作業療法の役割と課題		
5	作業療法の基本的実践論①		
6	作業療法の基本的実践論②		
7	疾患・障害別作業療法の実際①		
8	疾患・障害別作業療法の実際②		
9	疾患・障害別作業療法の実際③		
10	疾患・障害別作業療法の実際④		
11	地域生活支援の実際		
12	司法精神医療における作業療法		
13	作業療法の実践マネジメント		
14	精神系作業療法に関連する理論・モデル・技法		
15	まとめ		
<p>【使用テキスト・参考文献】 「生活を支援する精神障害作業療法 急性期から地域実践まで 第2版」医歯薬出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験。60点以上合格。</p>	

授業概要			
科目名 作業療法治療学Ⅴ（発達Ⅰ）	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 発達の作業療法の目的と役割，その臨床の基礎となる理論について，乳幼児から学童期，青年期を通し，治療的活動から日常動作，社会的参加まで広く学ぶ。 さらに発達障害分野の作業療法の歴史の変遷などについてもふれ，発達障害分野の作業療法の現状と将来，社会的問題（福祉）などについても幅広く考えてゆきたい。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	発達作業療法の目的		
2	発達作業療法の対象		
3	発達作業療法の歴史		
4	正常発達の原理（総論）		
5	正常発達の原理（運動）		
6	正常発達の原理（巧緻動作）		
7	正常発達の原理（反射）		
8	正常発達の原理（認知）		
9	正常発達の原理（情緒）		
10	運動を主とする発達障害	総論	
11	運動を主とする発達障害	症例	
12	運動を主とする発達障害	治療	
13	知的障害に対するOT①		
14	知的障害に対するOT②		
15	自閉症に対するOT		
<p>【使用テキスト・参考文献】 配布資料</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験．60点以上合格．</p>	

授業概要			
科目名 作業療法治療学VI (身体)	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 前期で学習した CVA・脊髄損傷・リウマチ・末梢神経損傷の疾患と、作業療法士に必要な評価・治療を基礎に、ADL・治療技術を演習で習得する。また、症例検討をとおして作業療法の全体の流れを把握する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 中枢神経疾患・関節リウマチ・脊髄損傷・末梢神経損傷・熱傷を中心とした疾患のリハビリテーションを考案し、作業療法の実践を行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	CVA・RA・SCI・腕神経叢麻痺, グループワーク		
3	CVA・RA・SCI・腕神経叢麻痺, グループワーク		
4	症例発表		
5	CVA・RA・SCI・腕神経叢麻痺, グループワーク		
6	CVA・RA・SCI・腕神経叢麻痺, グループワーク		
7	症例発表		
8	CVA・RA・SCI・腕神経叢麻痺, グループワーク		
9	CVA・RA・SCI・腕神経叢麻痺, グループワーク		
10	症例発表		
11	CVA・RA・SCI・腕神経叢麻痺, グループワーク		
12	CVA・RA・SCI・腕神経叢麻痺, グループワーク		
13	症例発表		
14	復習		
15	フィードバック		
<p>【使用テキスト・参考文献】 配布プリント</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 レポート (60点 : A60点, B50点, C40点, D30点の4段階. 提出期限の厳守, 内容などにより判断), 発表・取り組み姿勢 (10点), 筆記試験 (30点).</p>	

授業概要			
科目名 指導技術論・接遇法	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 8	時間数 15	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] これからの医療・介護施設に求められるのは、すべての専門スタッフによる利用者様（患者様）の立場に立った接遇である。医療現場で働く者として利用者様（患者様）やご家族に満足を与え、自分も楽しんで仕事ができるよう接遇マナーの基本を学ぶ。			
[授業全体の内容の概要] [授業終了時の達成課題（到達目標）]			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	なぜビジネスマナーが必要か ホスピタリティとは 1分間スピーチ		
2	コミュニケーションの原則 ビジネスマナーの5原則-挨拶・表情		
3	真の接遇を目指す 立ち居振る舞い 身だしなみ		
4	仕事に対する意識 身だしなみ・言葉遣い（心配りを示す）		
5	言葉遣い（敬語）		
6	言葉遣い・電話対応		
7	電話対応・来客対応・傾聴		
8	傾聴トレーニング・就業中のマナー・総復習		
[使用テキスト・参考文献] 「改訂版 医療に従事する人のための患者接遇マナー基本テキスト」日本能率協会マネジメントセンター		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験。60点以上合格。	

授業概要			
科目名 作業療法概論	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 本授業を通して、作業療法とは何かを考え、作業療法士の役割について理解する。その為、基礎となる哲学・概念・歴史を知り、身体・精神・高齢期などの各専門領域についても理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 作業療法を学ぶために作業療法の成り立ちや各領域における役割を講義や演習を通して理解する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 作業療法を理解することができ、作業療法を考え続ける学習意欲を身につけることができる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション 作業療法とは①		
2	作業療法とは②		
3	作業とは		
4	作業療法士とは		
5	作業療法士が関わる領域		
6	作業療法の治療手段		
7	作業療法の歴史①		
8	作業療法の歴史②		
9	分野別作業療法①（身体）		
10	分野別作業療法②（精神）		
11	分野別作業療法③（発達）		
12	分野別作業療法④（老年）		
13	事例検討①		
14	事例検討②		
15	フィードバック		
<p>【使用テキスト・参考文献】 「作業療法学全書 改訂第3版 第1巻 作業療法概論」協同医書出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験。60点以上合格。</p>	

授業概要			
科目名 基礎作業学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
15	30	1年・後期	必修 必修
【授業の目的・ねらい】 治療手段としての作業を理解する.			
【授業全体の内容の概要】 作業とは何かを理解し, 作業分析を通じ, 作業の特性を理解する.			
【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 作業・作業活動の治療への応用について説明できる.			
授業の各回のテーマ・内容/授業方法			
回	内容・備考		
1	作業療法と作業		
2	作業・作業活動とは		
3	ひとと作業・作業活動		
4	道具としての作業・作業活動		
5	作業・作業活動と生活機能		
6	作業分析とは		
7	一般的分析		
8	限定的分析		
9	作業・作業活動を用いる		
10	集団と作業		
11	作業分析演習①		
12	作業分析演習②		
13	作業分析演習③		
14	作業分析演習④		
15	フィードバック		
【使用テキスト・参考文献】 「ひとと作業・作業活動 新版」三輪書店		【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
科目名 基礎作業学実習Ⅱ（陶芸）	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 8	時間数 15	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業の一つの特性を持つ陶芸作業を体験することで、作業学を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 実習</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 陶芸の作業手順通りに授業を進め、最終的に作品として焼成するまで行うことにより、基礎的な陶芸の知識と技術を得るとともに、作品を完成させる達成感を得ることも目標とする。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	土練り・手びねり		
2	ひも作り・ロクロ		
3	仕上げ		
4	たたら作り		
5	素焼き窯詰め		
6	陶芸概論，下絵付け，釉掛け		
7	本焼き窯づめ，本焼き		
8	本焼き窯だし，七宝		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
科目名	授業の種類	授業担当者	
基礎作業学実習Ⅱ（さをり織り）	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
8	15	2年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さをり織りを通してコミュニケーションのとり方を学ぶ ・さをり織りの理念にふれてもらう <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さをり織りの理念にふれてもらう ・グループで実習を行う ・グループの中で個人を表現していただく ・ミニ作品展を行う（最終） <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <p>さをり織りを通してコミュニケーションのとり方を学ぶ。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	さをりの説明，道具の確認，マフラー整経 基礎織り，工程の理解		
2	自己表現		
3	ひもを織る，道具確認 工程の理解		
4	工程の理解 応用		
5	応用		
6	応用 応用と工夫		
7	応用と工夫 グループでの学び方		
8	総括		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
「さをり織り 好きに好きに織る」ぶどう社		筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
科目名 作業療法研究法	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
15	30	2年・後期	必修 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法という専門職の研究・発展に必要な研究基礎知識を特に量的研究と質的研究の両者から学びます。すでに発表された研究論文の読み方など研究の実際を学習する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 作業療法を行っていくうえでは、根拠をしめしたうえで実施していくことが必要となってくる。その根拠を見出すうえで必要な研究の成り立ちやその方法について教授する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 卒業研究の実施に必要な知識を学ぶ、研究が作業療法の発展に必要なことを理解する。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	なぜ、作業療法士に研究は必要なのか		
2	研究にかかわる基礎知識		
3	研究とは、研究の心構え		
4	研究とは、研究の心構え		
5	研究の流れ、目的		
6	研究計画書		
7	倫理の一般原則、インフォームドコンセント		
8	研究の種類		
9	研究の進め方		
10	文献レビューⅠ		
11	文献レビューⅡ		
12	研究論文の発表と手続き、事例研究Ⅰ		
13	事例研究Ⅱ		
14	事例研究Ⅲ、まとめ総復習		
15	フィードバック		
[使用テキスト・参考文献] 「作業療法士のための研究法入門」 三輪書店		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験。60点以上合格。	

授業概要			
科目名 作業療法評価学 I	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
15	30	1年・後期	必修 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 具体的な評価方法を学ぶ前に、評価の意義を理解することで必要な評価項目を選択し、正確に実行することの大切さを知る。現場で必要な評価が行えるようにする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 評価の意義・目的・手順・種類等、評価の基礎（総論）を学ぶ。バイタルチェックや面接法・ROM（上肢まで）は実技を交えて学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ・評価の意義・目的・手順・種類を理解する ・バイタルチェック・面接・ROM-T を行えるようになる</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション・評価とは		
2	評価過程・治療計画		
3	評価の統合と解釈		
4	医療面接の意義・目的		
5	医療面接		
6	医療面接のまとめ		
7	意識の評価・バイタルチェック		
8	血圧測定・呼吸・バイタルチェックのまとめ		
9	形態計測		
10	ROM測定とは（意義・目的）		
11	ROM測定（方法）：肩甲帯		
12	ROM測定（方法）：肩甲帯		
13	ROM測定（方法）：肩関節		
14	ROM測定（方法）：肘・前腕・手関節		
15	フィードバック		
[使用テキスト・参考文献] 「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」 医学書院		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
科目名 作業療法評価学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
15	30	2年・前期	必修 必修
【授業の目的・ねらい】			
身体障害領域で主に必要な評価の意義を知ること、臨床現場で症例に必要な評価項目を選択することができるようになる。			
【授業全体の内容の概要】			
作業療法を行う上では、面接・観察・検査・測定により対象者の全体像を把握できなければならない。本講義を通して主に身体領域の作業療法に必要な評価項目の意義と方法を中心に学ぶ。			
【授業終了時の達成課題（到達目標）】			
身体障害領域で主に必要な評価の意義を述べるができる			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	筋力検査（種類・意義・目的・方法）		
2	筋力検査のまとめ，知覚検査（意義・目的・方法）		
3	知覚検査のまとめ		
4	反射検査		
5	協調性検査		
6	姿勢反射検査		
7	筋緊張検査		
8	筋緊張検査		
9	ROM・MMT・反射検査の復習		
10	片麻痺機能検査（脳血管障害の評価）		
11	脳神経検査		
12	脳神経検査		
13	摂食・嚥下機能検査		
14	上肢機能検査，評価まとめ		
15	フィードバック		
【使用テキスト・参考文献】		【単位認定の方法及び基準】	
「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」 医学書院 「ベッドサイドの神経の診かた」 南山堂		筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
科目名 作業療法評価学Ⅱ	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 身体障害領域で主に必要な評価の意義を知ること、臨床現場で症例に必要な評価項目を選択することができるようになる。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 作業療法を行う上では、面接・観察・検査・測定により対象者の全体像を把握できなければならない。本講義を通して主に身体領域の作業療法に必要な評価項目の意義と方法を中心に学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 身体障害領域で主に必要な評価の意義を述べるができる</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	姿勢分析		
2	動作分析		
3	動作分析		
4	動作分析		
5	歩行分析		
6	歩行分析		
7	症例検討（CVA）		
8	症例検討（CVA）		
9	症例検討（CVA）		
10	症例検討（高齢者）		
11	症例検討（高齢者）		
12	症例検討（高齢者）		
13	症例検討（その他疾患）		
14	総復習		
15	フィードバック		
<p>【使用テキスト・参考文献】 「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」 医学書院 「ベッドサイドの神経の診かた」 南山堂</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60点以上合格.</p>	

授業概要			
科目名 作業療法治療学Ⅶ（高齢者）	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法士として高齢者に対しての必要な作業療法実践を講義，演習，事例を通して学習する．後期では認知症にフォーカスし，高齢者の生活像を把握する生活評価や身体機能評価，認知機能評価，心理機能評価を確認し，事例を通して全体像を把握できることを目的とする．</p> <p>【授業全体の内容の概要】 認知症における概念の理解と，作業療法の訓練や評価，薬物などについて知識を深める．講義・演習・事例検討を行う．</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 認知症高齢者に対する作業療法の知識や視点を習得し，作業療法評価や治療計画が立案できる．</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション 認知症の作業療法		
2	認知症発症と関連因子		
3	認知症の定義と分類・症状		
4	認知症の人の評価に向けて		
5	薬物療法		
6	非薬物療法		
7	認知症の方とのコミュニケーション		
8	認知症をどう理解するか		
9	評価の実際		
10	評価の実際②		
11	事例検討①		
12	事例検討②		
13	事例検討③		
14	作業療法理論		
15	総復習		
<p>【使用テキスト・参考文献】 「認知症の作業療法-ソーシャルインクルージョンを目指して-第2版」 医歯薬出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験．60点以上合格．</p>	

授業概要			
科目名 作業療法治療学Ⅷ（精神）	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 精神系作業療法に関する技法を体験することによって治療計画の立案の一助とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 精神系作業療法に関連する技法を体験する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 認知行動療法とは何か説明できる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	認知行動療法		
2	認知行動療法		
3	社会生活技能訓練		
4	社会生活技能訓練		
5	社会生活技能訓練		
6	社会生活技能訓練		
7	社会生活技能訓練		
8	社会生活技能訓練		
9	回想法		
10	回想法		
11	症例検討		
12	症例検討		
13	症例検討		
14	症例検討		
15	まとめ		
<p>【使用テキスト・参考文献】 「生活を支援する精神障害作業療法 急性期から地域実践まで 第2版」 .医歯薬出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験（60%）レポート（40%）. 合算し 60 点以上合格.</p>	

授業概要			
科目名 作業療法治療学Ⅳ（高次脳）	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
【授業の目的・ねらい】 ・ 高次脳機能障害の基礎知識を深める. ・ 各症状の特徴を捉える. ・ 評価, リハビリテーション介入～支援方法までの流れを把握する.			
【授業全体の内容の概要】 高次脳機能障害の基礎知識を深めることを目的とし, その流れを考えながら, 症状理解をしていく.			
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 高次脳機能障害の評価・リハビリテーションの流れが把握できる			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	脳血管疾患について		
2	高次脳機能障害とは		
3	行動の観察		
4	注意障害		
5	失語症		
6	失認		
7	失行		
8	記憶障害		
9	構成能力		
10	症例検討		
11	症例検討		
12	症例検討		
13	症例検討		
14	症例検討		
15	まとめ		
【使用テキスト・参考文献】 「高次脳機能障害学 第2版」 医歯薬出版		【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
科目名 作業療法治療学X（発達Ⅱ）	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 発達障害児の実生活的な生活をイメージでき、それを支える関係機関および関係職種が、それぞれ切磋琢磨して支援領域を広げていく現実を意識して、生活モデルに適切に対応できる知識・技術・意欲を育てること。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 いくつかのタイプの発達障害児の障害について分析的に学習し、実際の生活を支えるために必要な知識と技術を体験・実技・実習を通して学習する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 発達障害児の実生活的な生活をイメージでき、医療知識を背景として生活モデルに適切に対応できる知識と技術を習得する基礎をつくる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション障がい児生の生活と生活圏について 知的障がいについて		
2	自閉症スペクトラムについて①		
3	自閉症スペクトラムについて②		
4	自閉症の方への対応について①		
5	自閉症の方への対応について②,軽度発達障害について		
6	筋ジス及び神経筋疾患について		
7	神経発達と姿勢調節能力の獲得について		
8	ミラニーの発達チャート及び姿勢反射検査（実習）		
9	ミラニーの発達チャート及び姿勢反射検査（実習）		
10	脳性マヒ等の中枢性運動障害について		
11	重症心身障害特に呼吸障害について		
12	摂食嚥下のメカニズムとその発達について 誤嚥させにくい摂食指導のポイント		
13	嚥下メカニズムの復習とAAC・ATのオリエンテーション		
14	フィルムケーススイッチ及びBDアダプター作製（実習）、活用の実習		
15	フィルムケーススイッチ及びBDアダプター作製（実習）、活用の実習		
<p>【使用テキスト・参考文献】 配布資料 「発達障害と作業療法【基礎編】【実技編】」三輪書店 「医療的ケア研修テキスト」クリエイツかもがわ 「食べる機能の発達」医歯薬出版 「重症心身障害療育マニュアル」医歯薬出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験。60点以上合格。</p>	

授業概要			
科目名 日常生活活動学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 日常生活活動の概念，評価について学ぶ</p> <p>【授業全体の内容の概要】 日常生活活動について理解し，評価スケールの一部である Barthel Index 機能的自立度評価（FIM）について理解する</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 日常生活活動について理解し，評価スケールの一部である Barthel Index 機能的自立度評価（FIM）について理解する</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	日常生活を送るということ．町の中の障壁とは？		
2	日常生活活動とは？① (概念・なりたち)		
3	日常生活活動とは？② (活動別問題点①)		
4	日常生活活動とは？④ (活動別問題点②)		
5	動作観察によるADL評価①		
6	動作観察によるADL評価②		
7	動作観察によるADL評価③		
8	動作観察によるADL評価④		
9	自助具について①		
10	自助具について②		
11	ADL評価スケールについて		
12	Barthel index		
13	Functional Independence Measure		
14	総復習		
15	まとめ		
<p>【使用テキスト・参考文献】 「作業療法学全書 日常生活活動 改訂第3版」 協同 医書出版社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験．60点以上合格．</p>	

授業概要			
科目名 日常生活活動学実習	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 日常生活活動における活動企画及び問題点の抽出方法を学ぶ</p> <p>【授業全体の内容の概要】 日常生活活動の企画と移乗方法を学ぶ</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 日常生活活動の企画と問題点抽出ができるようになる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション		
2	片手調理		
3	片手調理		
4	寝返りの動作分析		
5	寝返りの動作分析		
6	入浴の動作分析		
7	入浴の動作分析		
8	トイレ動作の動作分析		
9	トイレ動作の動作分析		
10	仰臥位からの起き上がり		
11	仰臥位からの起き上がり		
12	端座位からの移乗		
13	端座位からの移乗		
14	端座位からの移乗		
15	まとめ		
<p>【使用テキスト・参考文献】 「作業療法学全書 日常生活活動 改訂第3版」 協同 医書出版社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 実技試験（50％）レポート課題（50％）. 60点以上合格. レポート課題の提出および実技試験の成績により評価する.</p>	

授業概要			
科目名 レクリエーション学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法士としてのレクリエーションの計画や立案，実施ができるようになるために必要な理論や知識，態度を学ぶことができる。レクリエーションを通して楽しみや，その先の対象者の生活を考えることができる。 事例に合わせたレクリエーションを考え，考察することができる。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 実際のレクリエーションを体験することや，レクリエーションを作業療法士が考えるにあたって必要な知識や，理論を講義や演習，ディスカッションを通して行っていく。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 レクリエーションに対する基本的な考え方を習得する。 作業療法士がレクリエーションを企画する際に必要な知識や理論を習得する。 対象者に合わせたレクリエーションの企画，実施できる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	レクリエーションの概要 レクリエーションの目的・計画		
2	レクリエーションの実施①		
3	レクリエーションの実施②		
4	レクリエーションの実施③		
5	中間まとめ		
6	レクリエーションの企画書作成		
7	レクリエーション準備①		
8	レクリエーション準備②		
9	レクリエーション運営①		
10	レクリエーション運営②		
11	SSTのウォーミングアップ①		
12	SSTのウォーミングアップ②		
13	SSTのウォーミングアップ③		
14	認知作業トレーニング(COGOT)①		
15	認知作業トレーニング(COGOT)②		
<p>【使用テキスト・参考文献】 適宜資料（プリント，スライド）を配布 実技を伴うため，動きやすい服装が望ましい。 資料を挟むバインダーなど。 他，演習やディスカッションを行う。</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 レポート課題。60点以上合格。</p>	

授業概要			
科目名 職業関連活動学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
8	15	2年・前期	必修 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 就労支援における作業療法の位置づけを理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 職業リハビリテーションの理念と意義について学ぶ。職業リハビリテーションにおける作業療法士の役割を理解する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 職業リハビリテーションの理念と意義を説明できる。職業リハビリテーションにおける作業療法の役割を説明できる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	職業リハビリテーション活動の概念		
2	障害者と職業		
3	障害者の就労制度		
4	ジョブコーチ, IPS		
5	作業療法評価課程		
6	労働省編一般職業適性検査		
7	職業レディネステスト		
8	まとめ		
<p>【使用テキスト・参考文献】 「作業療法学全書 改訂第3版 作業療法技術学4 職業関連活動」 協同医書出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験（60%）レポート（40%）。合算し60点以上合格。</p>	

授業概要			
科目名 地域作業療法学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
15	30	2年・後期	必修 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業に焦点をあてた作業療法を実施していくうえで地域での作業療法士のニーズは高まっているといえよう。本講義では地域での作業療法士の役割とともに、他職種との連携をどのように図っていくかを理解する。施設や時期における作業療法士に求められることやどのような社会サービスを利用できるかを理解していく。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 地域作業療法に対する興味、関心を高め、役割の理解と制度、支援、他職種との連携について学習する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 地域における作業療法士の役割を理解し講義や演習、事例を通して、チームアプローチの必要性や社会サービスを理解できる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション 地域作業療法の基盤と背景		
2	地域作業療法を考察する		
3	地域作業療法とは		
4	地域作業療法を支える制度・社会生活支援		
5	他職種の連携と協働を理解する		
6	地域医療を支える制度・社会生活支援・連携		
7	地域作業療法の実践		
8	支援プログラムとマネジメントを学ぶ①		
9	支援プログラムとマネジメントを学ぶ②（MTDLPについて）		
10	地域におけるリスクマネジメント		
11	地域作業療法の実践の場を知る①		
12	地域作業療法の実践の場を知る②		
13	地域作業療法の実践の場を知る③		
14	地域作業療法における作業療法理論		
15	総復習		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
「標準作業療法学 地域作業療法学第3版」 医学書院		筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
科目名 生活環境学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業と環境を切り離して考えることは難しく、種々の環境を移動しながら人間は生活を構成している。高齢者や障害者の日常的な生活の中で、住まいをどうすればいいか、住環境の整備ポイントを学ぶ。個々の福祉用具の特徴を押さえ、対象者に合わせた生活を提供する必要性を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 実習・講義を通して、住環境整備のポイントを押さえていく。福祉用具やリハ機器の名称、使い方を理解する。毎回の授業では前回の授業で学んだ知識を定着させるために振り返りの時間を設ける。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 疾患に合わせた住環境整備の方法を学ぶことができる。福祉用具の特徴を整理し、個々の事例に合わせた目標設定ができる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション,生活環境学とは		
2	住環境整備の意義		
3	住環境整備の進め方と留意点		
4	住環境整備における PT・OT の役割		
5	疾患障害別にみる住環境整備①		
6	疾患障害別にみる住環境整備②		
7	疾患障害別にみる住環境整備③		
8	疾患障害別にみる住環境整備④		
9	疾患障害別にみる住環境整備⑤		
10	住環境整備の基本的配慮①		
11	住環境整備の基本的配慮②		
12	住環境整備の基本的配慮③		
13	移動用具福祉用具と住環境整備		
14	事例検討		
15	フィードバック		
[使用テキスト・参考文献] 「OT・PTのための住環境整備論 第2版」 三輪書店		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
科目名 地域作業療法学実習Ⅱ	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数	時間数 45	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
【授業の目的・ねらい】 地域でデイサービス，デイケア等を利用する対象者の問題点を理解する			
【授業全体の内容の概要】 地域で作業療法士が働く場を利用する対象者の問題・施設の必要性を知るために実習を行う			
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 地域でデイサービス，デイケア等を利用する対象者の問題点が理解できる			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	2年次の8月に45時間を1施設で実習する。 デイリーノートと感想文の提出を求める。 実習報告会を行う。 ＊対象者様と接する実習であるため、「甘え」は禁物である。全ての行為・言動に責任が伴うことを自覚すること。対象者様および施設より与えていただいた学習の機会を最大限活用すること。		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
		実習施設での評価に，学校での発表等を加味し採点。60点以上合格。	

授業概要			
科目名 作業療法治療学IX（高次脳）	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
【授業の目的・ねらい】 【キーワード】 高次脳機能障害，言語，行為，認知，記憶 【授業全体の内容の概要】 高次脳機能障害についての臨床症状の理解を深め，症例検討を行う． 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 高次脳機能障害についての臨床症状の理解を深め，症状検討を行った際に，積極的な意見が出せる．			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	脳機能概論Ⅰ		
2	脳機能概論Ⅱ		
3	高次脳機能障害学概論Ⅰ		
4	高次脳機能障害学概論Ⅱ		
5	失語・失行・失認等の臨床像Ⅰ		
6	失語・失行・失認等の臨床像Ⅱ		
7	記憶障害の臨床像Ⅰ		
8	記憶障害の臨床像Ⅱ		
9	高次脳機能障害の評価・介入法Ⅰ		
10	高次脳機能障害の評価・介入法Ⅱ		
11	高次脳機能障害の評価・介入法Ⅲ		
12	高次脳機能障害の評価・介入法Ⅳ		
13	高次脳機能障害の評価・介入法Ⅴ		
14	高次脳機能障害のまとめⅠ		
15	高次脳機能障害のまとめⅡ		
【使用テキスト・参考文献】 配布資料 「高次脳機能障害学 第2版」 医歯薬出版		【単位認定の方法及び基準】 レポート課題. 60点以上合格.	

授業概要			
科目名 義肢装具学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
15	30	2年・前期	必修 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法士に必要な義肢・装具の構造や機能の知識と評価法，およびリハビリテーション医療におけるプログラムのたて方を修得する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 作業療法士に必要な義肢・装具の構造や機能の知識と評価法，およびリハビリテーション医療におけるプログラムのたて方を修得する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 上肢装具，体幹装具，下肢装具，足底装具，靴型装具について提示された症例の適応を口頭で発表できる。 切断と義肢の適応について提示された症例の適応を口頭で発表できる。 義肢装具の基礎知識について理解し，問題を解くことができる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	ガイダンス 装具概論（上肢を中心に） 基礎知識の整理		
2	上肢装具，疾患と適応 目的，分類，評価と訓練，PBL1		
3	上肢装具，評価と訓練 PBL1 発表		
4	体幹装具，疾患と適応 目的，分類，評価と訓練，PBL2		
5	体幹装具，評価と訓練（評価と訓練，PBL2 発表）		
6	下肢装具，疾患と適応（目的，分類，評価と訓練，PBL3）		
7	下肢装具，評価と訓練（評価と訓練，PBL3 発表）		
8	切断と義肢（障害の分類，義肢の種類と適応）		
9	前腕切断の作業療法（目的，分類，評価と訓練，PBL4）		
10	前腕切断の作業療法（評価と訓練，PBL4 発表）		
11	上腕切断の作業療法（目的，分類，評価と訓練，PBL5）		
12	上腕切断の作業療法（評価と訓練の流れ，PBL5 発表）		
13	下肢切断（目的，分類，PBL6）		
14	義足歩行の評価と訓練（切断のADL，仕事，スポーツなどPBL6 発表）		
15	まとめ（ポートフォリオ作成）		
<p>【使用テキスト・参考文献】 使用テキスト 「作業療法技術学1 義肢装具（作業療法学全書）」古川宏，協同医書出版社 必要に応じてプリントを配布する。</p> <p>参考文献：「装具作業療法学入門」原 和子 パシフィックサプライ，1987 「手—その機能と解剖（4版）」上羽康夫 金芳堂 「義肢装具学」川村次郎 編 医学書院 「義肢装具のチェックポイント」日本整形外科学会監修，医学書院 矢崎 潔：手のスプリントのすべて（3版），三輪書店</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験（50%），発表（30%），ポートフォリオ（20%）で評価する。 ポートフォリオとは，自主的に調べた項目，考えたこと，ノート，文献資料など（これらをログと言う）を将来の実習や臨床に役立てるためファイルにまとめたもの。</p>	

授業概要			
科目名 義肢装具学実習	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
15	30	2年・後期	必修 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 義肢装具学で学んだ知識をもとに、主に義肢・装具の作業慮法の評価、プログラムのたて方、訓練の内容について実習する。 義手および手の装具について作業療法として関わる疾患、障害の適応を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 義肢装具学で学んだ知識をもとに、主に義肢・装具の作業慮法の評価、プログラムのたて方、訓練の内容について実習する。 義手および手の装具について作業療法として関わる疾患、障害の適応を学ぶ。 簡単な上肢装具を作る。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 義肢装具士、理学療法士との関わりを学び、チームワークとしての連携ができる。 上肢切断の義手適応および評価、作業療法プログラムを作り、口頭で発表できる。 簡単な上肢装具を作り、疾患、障害に合わせて適応を考え、作業療法プログラムを立てることができる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	ガイダンス 切断の作業療法（訓練計画の立て方 PBL1 により課題を理解し、訓練計画をたてる。）		
2	切断と義肢（PBL1 発表）		
3	装具作業療法（PBL2「疾患別」治療計画）		
4	切断と義肢、装具作業療法（PBL2 発表）		
5	スプリント実習①（手の安静スプリント作成実習）		
6	スプリント実習①（手の安静スプリント作成実習）		
7	スプリント実習②（手の対立スプリント作成実習）		
8	スプリント実習②（手の対立スプリント作成実習）		
9	スプリント実習③（その他、手指のスプリント作成実習）		
10	スプリント実習③（その他、手指のスプリント作成実習）		
11	スプリント実習 ポートフォリオ作り（スプリントのまとめと発表）		
12	スプリント実習 ポートフォリオ作り（スプリントのまとめと発表）		
13	義肢装具会社にて見学実習（レポート）		
14	義肢装具会社にて見学実習（レポート）		
15	発表（レポート・ポートフォリオ提出）		
<p>【使用テキスト・参考文献】 使用テキスト：「作業療法技術学 1 義肢装具（作業療法学全書）」 古川 宏、協同医書出版社 必要に応じてプリントを配布する。 参考文献：「手のスプリントのすべて」 第3版 矢崎潔 著 三輪書店 「装具作業療法学入門」 原 和子 パシフィックサプライ、1987 「義肢装具学」 第4版 川村次郎 編集 医学書院 「標準作業療法学、身体機能作業療法学、第二版」岩崎テル子編 医学書院 「義肢装具のチェックポイント」日本整形外科学会監修、医学書院</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 発表（50%）、レポート・ポートフォリオ（50%）で評価する。</p>	

授業概要			
科目名 心理学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 基本的な心理学理論を理解し、人と人、人と外界がどのように関係しあっているのかを把握する。その上で、対人援助をしていく際の注意点等を理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 心理学とは何か、人間の言動にはどのような特徴があるのかを考え、理解していく。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 対人援助をしていく上で、他者理解、あるいは自己理解の重要性に気づき、実際の現場でそれを生かせるようにする。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	心理学とはなにか		
2	知覚と認知		
3	学習（条件付け等）		
4	記憶（長期記憶・短期記憶等）		
5	発達①		
6	発達②		
7	青年期（自我同一性）		
8	性格①		
9	性格②		
10	自己		
11	家族		
12	心の病理①		
13	心の病理②		
14	ストレス		
15	全体的なまとめ		
<p>【使用テキスト・参考文献】 「はじめてふれる心理学 [第2版]」（サイエンス社）</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験. 60点以上合格.</p>	

授業概要			
科目名 臨床心理学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 医療従事者として、現場で必要とされる臨床心理学の基礎的な知識を身につけるとともに、対人援助職として対象者を理解するために、いかに関わればいいのかを考える機会とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 対人援助においては、対象者となる人間の理解が必要である。臨床心理学では、特に心理面での人間理解の方法としての人格理論・心理アセスメントについて学ぶ。また、心の問題を解決する方法としての心理療法の様々な技法についても理解を深める。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 人格理論、心理アセスメント、心理療法の用語が具体的に理解できている。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	臨床心理学とは何か		
2	人格理論① フロイトの精神分析理論 自我防衛機制		
3	人格理論② ユングの分析心理学		
4	臨床心理学的援助の実際		
5	発達理論・発達障害の理解		
6	心理アセスメント①発達検査・知能検査		
7	心理アセスメント②知能検査の実際		
8	心理アセスメント③人格検査（質問紙法）		
9	心理アセスメント④人格検査（投影法）		
10	心理アセスメント⑤作業検査等、心理アセスメントの実際		
11	心理療法①心理療法の基本的態度、心理療法の技法		
12	心理療法②言語的接近法		
13	心理療法③非言語的接近法		
14	心理療法④行動療法等		
15	試験の振り返り		
<p>【使用テキスト・参考文献】 川瀬正裕・松本真理子・松本英夫著「心とかかわる臨床心理」 「心とかかわる臨床心理 基礎・実際・方法」 ナカニシヤ出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 定期試験 60 点以上合格</p>	

授業概要			
科目名 保健医療福祉概論	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 作業療法士として必要な医療制度や社会福祉に関する基礎知識を習得し、チーム医療における役割の理解を目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] まずは社会福祉・社会保障・社会保険の違いについてしっかり理解し、わが国における具体的な制度についての理解を深める。また身近な社会資源から世界の社会保障に至るまで実例を示しながら、グループワークも交えて相互理解を図る。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）] 利用者の自己実現に向けた保健・医療・福祉の連携について理解を深めることができる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	オリエンテーション なぜ福祉を学ぶか		
2	社会福祉の歴史①		
3	社会福祉の歴史②		
4	社会保障の概念		
5	社会保障の定義・小テスト		
6	わが国の社会保険制度①		
7	わが国の社会保険制度② 世界の社会保障について（ビデオ学習Ⅰ）		
8	世界の社会保障について（ビデオ学習Ⅱ）		
9	医療保険制度①		
10	医療保険制度②		
11	介護保険について①		
12	介護保険について②		
13	現代社会の様々な問題を読み解く		
14	総復習		
15	まとめ		
<p>[使用テキスト・参考文献] 参考文献：新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度 ③ 「社会福祉」メヂカルフレンド社</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 60点以上合格。</p>	

授業概要			
科目名	授業の種類	授業担当者	
基礎作業学実習 I (木工・スプールウィービング)	講義		
授業の回数 5	時間数 10	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法の活動の一つである木工やスプールウィービングについてその作業特性と道具の扱い方について学ぶことを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 作品を作るという過程を知ると同時にどのような対象者に用いることのできる作業かということを検討する。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 作業の工程を学んだ上で、その活用についても考えることができる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	スプールウィービング		
2	スプールウィービング		
3	木工（爪切り）		
4	木工（爪切り）		
5	木工（スケートボード）		
[使用テキスト・参考文献] 配布資料		[単位認定の方法及び基準] 作品の出来栄え。レポート課題 60 点以上合格。	

授業概要			
科目名 基礎作業学実習（革細工）	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 10	時間数 20	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 作業療法のアクティビティの一つである革細工について、その作業技術を理解し習得する。対象者に対し適切な作業を選択できるように学習する。作業に必要な用具、材料についても学び、活動がスムーズに行えるようにしたい。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 革細工での作品作りを行い、作業活動の一つである「革細工」の方法、道具などを知る。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 革細工で作品を作り、そのために必要な道具やその工程を理解することができる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	作業療法における革細工の概要		
2	革細工に必要な用具、材料について名称と使用法を理解する		
3	革細工技法を習得する。（スタンピング法）革のしおり、キーホルダー、ブローチの製作を通して。		
4	革の染色法を習得する。（色差し染め、拭き染め）		
5	革細工技法を習得する。（カービング法）三つ折りキーケースの製作を通して。		
6	革の染色法（アンティック染め）を習得する。		
7	仕立ての学習（金具のつけ方など）を習得する。		
8	カードケースの製作を通して、穴あけ、かがり方を習得する。		
9	ブレスレットの製作（習得技術の応用）		
10	革の立体造形（花ブローチ、動物マスコットの製作）		
[使用テキスト・参考文献] 森下雅代：初めての皮モノづくり 美術出版社		[単位認定の方法及び基準]	

授業概要			
科目名	授業の種類	授業担当者	
言語療法学概論	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
8	15	1年・後期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 言語機能障害や嚥下障害，聴覚等の障害に関する知識，技術の習得</p> <p>[授業全体の内容の概要] 近年，脳卒中による言語機能障害や嚥下障害，聴覚等の障害を有する方々に対するリハビリテーションの重要性が増しています．そのような障害について，医療従事者として知っておかなければならない様々な知識や技術をわかりやすく講義します．</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）] 言語機能障害や嚥下障害，聴覚等の障害に関する知識，技術が習得できる．</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	言語聴覚障害総論		
2	高次脳機能障害		
3	失語症		
4	構音障害		
5	言語発達障害（脳性麻痺）・吃音		
6	嚥下障害 1		
7	嚥下障害 2		
8	職業”作業療法士”として生きる		
<p>[使用テキスト・参考文献] 使用テキスト：なし（A4 ファイルをご用意ください） 参考文献：「言語聴覚療法 臨床マニュアル」 協同医書出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 定期試験 60 点以上合格</p>	

授業概要			
科目名 地域作業療法学実習 I	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数	時間数 45	学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 地域でデイサービス，デイケア等の役割を理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 地域でのデイサービス・デイケア等の役割を理解するために，実習を行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 地域でデイサービス，デイケア等の役割がわかる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
<p>1年次の8～9月にかけて45時間を1施設で実習する。 デイリーノートと感想文の提出を求める。 実習報告会を行う。 ＊対象者様と接する実習であるため，「甘え」は禁物である。全ての行為・言動に責任が伴うことを自覚すること。 対象者様および施設より与えていただいた学習の機会を最大限活用すること。</p>			
【使用テキスト・参考文献】		<p>【単位認定の方法及び基準】 実習施設での評価に，学校での発表等を加味し採点。60点以上合格。</p>	

授業概要			
科目名	授業の種類	授業担当者	
医療倫理・死学	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
15	30	1年・前期	必修
[授業の目的・ねらい] 1. 医療にかかわる人としてのあるべき姿について学ぶ。 2. 目ざましく進歩する医療を知るとともに、避けることのできない人の生と死について考える機会とする。			
[授業全体の内容の概要] 1. リハビリテーションを必要とする人々の疾患と人の老化についてリハビリテーションスタッフとしてのかかわり。 2. 医療・介護の中でのスタッフとしての役割 3. 人の生命の誕生と避けることのできない死について。			
[授業終了時の達成課題（到達目標）] 1. リハビリテーションを必要とする人々の疾患と人の老化についてリハビリテーションスタッフとしてのかかわりを知る。 2. 医療・介護の中でのスタッフとしての役割を知る。 3. 人の生命の誕生と避けることのできない死について考えることができる。			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	医療倫理・死学とは *但し、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。		
2	最近の医療の動向と人口の変化・課題テーマについて		
3	医療の安全・事故防止		
4	リハビリテーションを必要とする施設と災害発生時の対応		
5	情報開示		
6	個人情報の保護		
7	生活習慣病と老人の死		
8	ターミナル期と死をどこで迎えるか		
9	宗教と死		
10	医療の変化		
11	感染症		
12	自己の健康管理		
13	地域との連携		
14	リハビリテーションの今後の可能性		
15	試験の返却とまとめ これからの職業人として		
[使用テキスト・参考文献] テキストは使用せず。 参考文献 1. 日本経済新聞の医療・介護に関する記事 2. ダイヤモンド・東洋経済等の週刊誌の特集記事 3. 文芸春秋、NHK きょうの健康等の月刊誌の特集記事 4. ナーシンググラフィカ（メディカ出版） 5. 国民衛生の動向 2016/2017（厚生労働統計協会） 6. 感染対策のレシピ 矢野邦夫（リーダーハウス） 7. 死とどう向き合うか アルフォンス デーゲン（NHK ライブラリー） 8. 飛鳥へそしてまだ見ぬ子へ 井村和清（祥伝社） 9. 鎌田實の著書より「がんばらない」「あきらめない」他 10. 詩と死をむすぶもの 谷川俊太郎・徳永進（朝日新書）		[単位認定の方法及び基準] 出席態度：20% 課題発表とレポート 10% グループワークの発表と記録 10% 期末試験：60%	

授業概要			
科目名 統計学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 統計学に関する基礎的な概念や考え方が理解出来ることを目的としている。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 業務に就いたときに必要となる統計的手法によるデータの処理や分析法について、基礎的な概念や考え方を学ぶ。 講義で扱う例題には、医療分野に関連した事例を多く取り入れている。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）] 実際の業務に就いたときに必要となる統計的手法によるデータの処理や分析法が扱えるようになる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	統計学の概要		
2	度数分布とヒストグラム		
3	平均と標準偏差 その他の代表値		
4	加法定理と乗法定理		
5	ベイズの定理 ベルヌイ試行		
6	確率変数と確率分布		
7	平均（期待値） 分散		
8	2項分布		
9	正規分布		
10	ポアソン分布		
11	共分散と相関係数 回帰直線		
12	母集団と標本抽出 標本分布		
13	点推定と区間推定		
14	母平均の区間推定		
15	統計学のまとめと総復習		
<p>[使用テキスト・参考文献] Excelによるメディカル／コ・メディカル 統計入門 共立出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 8割以上の出席と、筆記試験の評価を80点、平常点を20点の合計100点満点のうち60点以上のいずれも満たした場合を合格とする。</p>	

授業概要			
科目名 情報処理	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 23	時間数 45	学年・時期 1年・前期・後期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>パソコンの知識，操作方法，オペレーション技術（ワープロ，表計算ソフト），及びインターネット，情報検索やメール操作などの基本について学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>臨床現場及び実社会での実践的に情報を処理する能力を身につけ，基礎理解を基軸に，更にコンピュータ応用の実践的側面，理論的側面を養う。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	パソコン室利用・オペレーティングシステム①		
2	メール設定 オペレーティングシステム②		
3	Word2013 について		
4	Word2013 入力，署名		
5	Word2013 IME パッド，入力，保存，ヘッダーとフッター		
6	Word2013 ページ設定，印刷，移動，コピー		
7	Word2013 小テスト，文書作成①		
8	Word2013 文書作成②		
9	Word2013 文書作成③		
10	Word2013 文書作成④		
11	Excel2013 について		
12	Excel2013 再計算，演算子，オートフィル		
13	Excel2013 関数：SUM, AVERAGE, MAX, MIN, COUNT, COUNTA		
14	Excel2013 関数：ROUND, ROUNDUP, ROUNDDOWN		
15	試験返却及び解説		
【使用テキスト・参考文献】 30 時間でマスター OFFICE 2013		【単位認定の方法及び基準】 定期試験 60 点および平常点 40 点，合計 60 点以上合格。	

授業概要			
科目名 精神医学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 作業療法士に必要な精神医学的知識の習得の仕方と現場で伝える手法とその原理を分かりやすく講義する</p> <p>[授業全体の内容の概要] 講義</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）] 作業療法士に必要な精神医学的知識の習得</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	パーソナリティ障害		
2	薬物・アルコール依存 1		
3	薬物・アルコール依存 2		
4	器質性・症状性精神障害		
5	老年期精神障害		
6	児童・青年期の精神障害 1		
7	児童・青年期の精神障害 2		
8	児童・青年期の精神障害 3		
9	摂食障害・法と精神医学		
10	精神科治療総論 1		
11	精神科治療総論 2		
12	精神科治療総論 3		
13	国試テスト対策 1		
14	国試テスト対策 2		
15	後期まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 「TEXT 精神医学 改訂 4 版」 南山堂 「看護のための精神医学 第 2 版」 医学書院		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験、60 点以上合格。	

授業概要			
科目名 地域作業療法学実習Ⅲ	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数	時間数 45	学年・時期 3年・前・後期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 地域におけるデイケア・デイサービス等の社会資源の活用及び作業療法士のアプローチ法を理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 地域作業療法における社会資源の活用法の理解とアプローチ法の理解。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 地域におけるデイケア・デイサービス等の社会資源の活用及び作業療法士のアプローチ法を知ることができる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
<p>3年次の臨床実習Ⅲの期間で45時間を1施設で実習する。 デイリーノートと感想文の提出を求める。 実習報告会を行う。 ＊対象者様と接する実習であるため、「甘え」は禁物である。全ての行為・言動に責任が伴うことを自覚すること。 対象者様および施設より与えていただいた学習の機会を最大限活用すること。</p>			
【使用テキスト・参考文献】 特になし		【単位認定の方法及び基準】 発表内容. 60点以上合格.	

授業概要			
科目名 作業療法治療学演習	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数	時間数 120	学年・時期 3年・前期・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 作業療法教育を受けてきた集大成として卒業研究を行い，国家試験合格に必要なレベルまでの知識の習得を目指す</p> <p>[授業全体の内容の概要] 卒業研究と国家試験対策</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）] 卒業研究の発表・国家試験合格レベルまで模試での得点がとれる</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
卒業研究・国家試験対策学習			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	

授業概要			
科目名	授業の種類	授業担当者	
老年学	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
15	30	1年・後期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 老年学の概念を学ぶ</p> <p>[授業全体の内容の概要] 老年学の概念，基礎知識を学び，高齢者医療におけるリハビリテーションの役割</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）] 老年学の概念，基礎知識を習得し，高齢者医療におけるリハビリテーションの役割を理解する。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	序説～老化，加齢変化①生理機能		
2	加齢変化②運動機能，精神心理面 高齢者へのアプローチ／人口動態		
3	高齢者の機能評価①		
4	高齢者の機能評価②		
5	退院支援，老年症候群各論①		
6	老年症候群②		
7	循環器疾患		
8	呼吸器疾患		
9	消化器疾患		
10	骨・運動器疾患		
11	神経疾患，精神疾患		
12	神経疾患，精神疾患，内分泌代謝疾患		
13	血液・免疫疾患，腎・泌尿器疾患		
14	皮膚・口腔疾患，感染症 試験について		
15	試験解説 耳鼻咽喉疾患，眼疾患，ほか補足		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
「標準理学療法・作業療法学専門基礎分野 老年学 第4版」医学書院		筆記試験．60点以上合格．	

授業概要			
科目名 地域医療学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 8	時間数 15	学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 地域における医療・看護・介護の現状を理解し、Common disease（临床上良く見られる疾患）に対する知識を得て、リハビリテーションを始めとした予防法・治療法を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 PBL（problem based learning）と呼ばれる方法で、グループでの討論を基に勉強して、それぞれの疾患を持った患者さんの問題を自分たちで解決していく。講義はあくまでも学生自身の学びの助けとして行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来、地域でのリハビリテーションに必要な疾病に関する知識が習得できる。 ・自分自身で勉強して患者さんの問題を解決することができる。 			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	地域医療とは？ インフルエンザ		
2	生活習慣病		
3	心疾患		
4	呼吸器疾患		
5	癌		
6	認知症		
7	脳血管障害・多職種連携		
8	フィードバック		
<p>【使用テキスト・参考文献】 特になし。毎回講義資料配布</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験，学習態度の合計 60 点以上合格。 筆記試験 95% 学習態度 5%</p>	

授業概要			
科目名	授業の種類	授業担当者	
リハビリテーション医学	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
15	30	1年・前期	必修
【授業の目的・ねらい】 【授業全体の内容の概要】 リハビリテーションを医師の立場からわかりやすく説明・講義する。臨床の各論としてリハプログラム、脳卒中や脊髄損傷、脳性麻痺などの中枢疾患から末梢神経損傷や切断、心疾患、呼吸器疾患、癌までの具体的な疾患に関して、評価から治療・訓練を特徴的疾患と共に説明・講義する。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	リハビリの概念，上肢・下肢の動き，徒手筋力テスト（成長・発達）		
2	廃用症候群，局所の廃用，まひと筋力低下，言語障害失語，失行，失認		
3	嚥下・排尿の障害，筋緊張，筋力強化，身体計測		
4	ADL・QOL・PT・OT 装具，歩行補装具，自助具		
5	リハビリプログラム，職場復帰，目標指向，リハビリを効率よく・長く行うこと		
6	脳血管障害（1） 脳梗塞，脳出血，くも膜下出血 病態，診断，治療		
7	脳血管障害（2）意識障害，脳の局所症状，廃用症候群，てんかん		
8	脳血管障害（3）回復期・維持期，脳外傷，脊髄損傷（1）		
9	脊髄損傷（2）高位診断，横の診断，治療，むちうち損傷		
10	二分脊椎，脳性まひ，パーキンソン病，多発性硬化症		
11	ALS，ポリオ，筋ジストロフィー，末梢神経損傷，肩関節疾患，腰椎症，股関節症		
12	認知症（アルツハイマー症 etc），骨折		
13	切断（上肢・下肢）義手・義足，関節リウマチ		
14	呼吸器疾患，心臓疾患，疼痛，熱傷，がん		
15	フィードバック		
【使用テキスト・参考文献】		【単位認定の方法及び基準】	
「標準リハビリテーション医学 第3版」医学書院		筆記試験．60点以上合格．	

授業概要			
科目名 画像診断学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 15	時間数 30	学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 リハビリテーション医学においても、病勢や治療効果の判定をするために、画像診断が重要となってきた。さらに、近年では作業療法士国家試験でも画像から状況を問う問題が多数出題されている。そこで、各種画像診断検査の特徴や原理を理解し、画像による基本的な診断方法を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 グループワークおよび講義を行う。与えられた画像についてグループワークでの議論をもとに勉強し、それぞれの検査法における特徴・原理・診断法を学ぶ。講義はあくまでも学生自身の学びの助けとして行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種画像診断法の原理と特徴が説明できる。 ・解剖学の正常像を踏まえて、画像のロケーションを付ける事が出来る。 ・各疾患の典型的な画像や所見から、診断を導き出すことができる。 ・グループワークによって分からない部分を挙げ、自分自身で勉強して解決することができる。 			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	画像診断学総論		
2	単純 X 線写真		
3	X 線 CT		
4	その他 X 線を用いた診断法・核医学検査		
5	MRI		
6	内視鏡検査		
7	超音波検査		
8	復習・演習		
9	整形外科		
10	神経系①		
11	神経系②		
12	心血管系		
13	呼吸器系		
14	その他		
15	フィードバック		
<p>【使用テキスト・参考文献】 適宜配布資料 「リハビリテーションのための画像の見方 画像診断学」 メジカルビュー</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験と学習態度の合計 60 点以上で合格 筆記試験 95% 学習態度 5%</p>	

授業概要			
科目名	授業の種類	授業担当者	
リハビリテーション概論	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
15	30	1年・前期	必修
<p>[授業の目的・ねらい] リハビリテーションとは何かを理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] リハビリテーションの概念を理解し、実際に学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）] リハビリテーションの概念を説明できる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	リハビリテーションの概念・理念・定義		
2	健康と障害の概念と分類		
3	健康と障害の概念と分類-2		
4	障害の心理，心理的・社会的問題と受容		
5	ヒトの発達と評価		
6	リハビリテーション過程		
7	リハビリテーションの諸段階		
8	医療とリハビリテーション専門職種と役割		
9	チームアプローチ		
10	ADL,QOL の概念と評価法		
11	地域リハビリテーションと社会資源，在宅ケア		
12	高齢者・健康対策と少子化対策		
13	医療・福祉制度		
14	医療法・福祉関係法規		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
「リハビリテーション概論 改訂第3版」 永井書店		筆記試験. 60点以上合格.	

授業概要			
科目名 内科学	授業の種類	授業担当者	
	講義		
授業の回数 5	時間数 10	学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 造血組織，造血機構，造血幹細胞について理解する。 白血病，リンパ腫，骨髄腫といった造血器腫瘍の診断，治療を理解する。 血友病，血小板減少症といった出血性疾患及び血栓性疾患を理解する。 鉄欠乏性貧血をはじめ，代表的な貧血性疾患を理解する。 造血幹細胞移植を含め，最新の血液学の診断，治療の進歩を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 造血機構及び造血器疾患，出血性疾患，血栓性疾患，貧血性疾患の診断，治療の解説</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）] 造血機構及び造血器疾患，出血性疾患，血栓性疾患，貧血性疾患の診断，治療についての理解を深められる。</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	造血機構，造血幹細胞の分化，機能		
2	白血病，リンパ腫，骨髄腫		
3	出血性疾患と血栓性疾患		
4	貧血		
5	造血幹細胞移植と最新の血液学の進歩		
[使用テキスト・参考文献] 使用テキスト：標準理学療法学・作業療法学 内科学 第3版 医学書院 参考文献：1. わかりやすい内科学 文光堂 2. 老年医学テキスト メディカルビュー社		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 60点以上合格	

授業概要			
科目名	授業の種類	授業担当者	
小児科学	講義		
授業の回数	時間数	学年・時期	必修・選択
15	30	2年・前期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】 理学・作業療法を行う上で、必要な小児科学の知識を学び、現場での総合的な判断力を養う。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 小児科の基礎知識と関連事項</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 上記、目的・ねらいの達成</p>			
授業の各回のテーマ・内容／授業方法			
回	内容・備考		
1	小児科学総論①		
2	小児科学総論②		
3	小児科学総論③＋診断と治療		
4	新生児・未熟児総論		
5	先天異常と遺伝病①		
6	先天異常と遺伝病②		
7	神経・筋・骨系疾患①		
8	神経・筋・骨系疾患②		
9	循環器疾患		
10	呼吸気疾患		
11	感染症・消化器疾患①		
12	感染症・消化器疾患②内分泌・代謝疾患		
13	血液疾患，免疫・アレルギー疾患他		
14	腎，腫瘍性疾患他（テスト範囲の説明）		
15	試験解説，講義の総括・補足		
[使用テキスト・参考文献] 「標準理学療法学・作業療法学 小児科学 第5版」医学書院		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 60点以上合格。	